



東北大学

平成24年2月3日

報道機関 各位

東北大学大学院生命科学研究科
生態適応グローバル COE

グローバルセミナー東北
「震災復興と生態適応 ～国連生物多様性の10年とRIO+20に向けて～」
開催のご案内

<概要>

3月11日に発生した東日本大震災により甚大な被害を受けた地域の復興は今、国際的な関心事となっています。津波から人命を守る防潮堤の早期復元、インフラの整備、復興住宅の建設など、まちづくり計画が急ピッチで進められていますが、そこに住む人々の願いは「営みの復興」にあります。世界有数の漁場および農地を保有する東北地域の豊かさは生物多様性により支えられてきました。その回復を促すことが、より確かで持続可能な復興には欠かせません。またこれらの自然の恩恵による歴史的、文化的価値は大きく、この地域の人々の暮らしと街づくりの根幹となっていました。

そこで本セミナーではスウェーデンを環境先進国へと導いた立役者の一人である Torbjörn Lahti 氏から持続可能な復興の原則についてお話いただき、生態系の力を活かした自然との共生と震災復興について考えます。都市計画、防災、土木建築、産業復興にかかわる企業や学術研究者、大学院生はじめ、自治体、NPO/NGO、一般市民の皆様の参加をお待ちしております。

主催：東北大学、国際連合大学、(公財)国連大学協力会

日時：2月16日10時00分～18時00分、17日10時00分～17時00分（被災地視察・希望者のみ）

場所：東北大学・片平さくらホール（仙台市青葉区片平二丁目1-1）

参加費：無料

参加申込：Web または Fax で参加申込してください。（定員130名先着順）

① Web：<http://gema.biology.tohoku.ac.jp/sympo2012/> よりお申し込みください。

② Fax：022-795-3638 まで、氏名、所属、役職、メールアドレスまたは連絡先電話番号を明記のうえお送りください。

【1日目 2月16日(木) 10:00～18:00】

◆基調講演：

Torbjörn Lahti 「災害に強い持続可能な街づくり」

(スウェーデンIEMEA共同代表、スウェーデンの環境都市(エココミュニケーション)創設者)

◆課題提起：

① 岩手大学学長 藤井克己

「社会の多様性を生かしたコミュニティベースの震災復興—生態系に触れながら—」

② 国連大学副学長 武内和彦 「里山里海の再生を通じた震災復興地域づくり」

③ 東北大学大学院工学研究科 災害制御研究センター 津波工学研究室 教授 今村文彦

「新たな視点から取り組む津波対策と街づくり」

◆パネルディスカッション：

モデレータ：国連大学副学長 武内和彦

パネリスト：

① 環境省東北地方環境事務所所長 鳥居敏男

(震災復興に三陸復興国立公園(仮称)をどう活かすか)

② 農林水産省環境政策課長 榎本雅仁(震災復興と生物多様性—農林水産省の取組—)

③ 宮城大学事業構想学部教授 風見正三

(コミュニティを主体とした地域資源経営—創造的復興を目指して)

④ 東北大学アジア研究所 東北アジア研究センター教授 平川新

(歴史文化をめぐる多様性の危機—震災の衝撃—)

⑤ 東北大学大学院生命科学研究科教授 中静透

(海と田んぼからのグリーン復興プロジェクト)

◆東北の自然—蕪栗沼ふゆみずたんぼプロジェクト イメージ映像

◆学生/NPOボランティア活動報告

【2日目 2月17日(金) 10:00～17:00】

◆被災地視察(2月17日) (参加無料・要事前申し込み)

※コーディネータ：NPO法人田んぼ 理事長 岩渕成紀

① 蒲生干潟：干潟の被災状況視察

② キリンビール工場：11月操業を再開した工場視察

③ 石巻・渡波(わたのは)： 松林被災状況・ふゆみずたんぼ視察

(お問い合わせ・取材等のお申し込み先)

東北大学生命科学研究科 生態適応グローバル COE

022-795-3637

eco-gcoe@bureau.tohoku.ac.jp